



B+COM SB213.EVO マルチプル通話入門

■目次

P1 表紙・目次

P2 ペアリングとは?

P3 B+COM シリーズの B+COM 通話仕様

P4 B+COM マルチプル通話の特徴

P5 SB213.EVO みのトライアングルの場合

P6 SB213.EVO と SB213 のトライアングルの場合

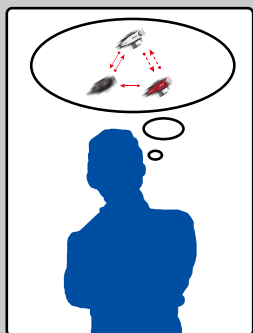
P7 SB213.EVO と SB213 と SB203 全てのモデルを
使用したトライアングルの場合

ペアリングとは？

Bluetooth 機器を使用する上で最も特徴的であり、重要な操作「ペアリング」。本当はとてもシンプルなペアリング操作ですが、目に見えないため誤解が多いのも事実。一度イメージさえつかめばスッキリ理解できます。

B+COM使用の実際の流れ

使い方を考える



一番最初に、使いたい機器をどうつなぐのか（順番・同時に使えるのかなど）を考えます。Bluetooth 機器が増えるほど、よく考える必要があります。

ペアリング



繋ぎ方をイメージできたら、実際に機器同士を**初期登録**＝「ペアリング」します。Bluetooth 機器は、覚えていた相手にしか接続できません。ここで一度お互いの機器を覚えさせておくことで、後々使うときに相手を認識できるのです。逆に、一度覚えた相手を忘れてしまうときは、意図的にペアリング情報をリセットしたときか、多数の機器とペアリングすることで古いペアリング情報が記憶可能領域から押し出されてしまうときのみです。

ペアリング＝相手の情報を記憶する

実際に使う



一度ペアリングして覚えさせてある機器を使うときは、それぞれの機器を接続する必要があります。お互いの記憶の中にある接続機器リストをもとに、見えないケーブルを接続するイメージです。B+COM 同士の場合、電源を入れてもまだお互いを探しに行きません。B+COM ボタンを押して相手呼びかけようとすると、**リストの中から呼び出せる相手を探して接続を確立**＝**コネクト**させます。一度コネクトしてしまえば、電源を切るまで接続は維持されます。
※(エラーなどで切断されることはあります。その場合は**再度コネクト**します。)

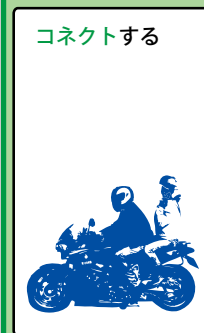
コネクト＝実際に相手と繋げる

使用終了



B+COM を使わないときは当然電源を切ります。**電源を切るとコネクトは切断されます。**しかし**ペアリング情報は残っています。**記憶は消えません。

また使用する



「お昼を食べて再出発」「二日目の朝、自宅に向けて発進!」「1か月ぶりに B+COM 使うなあ。」
ペアリング情報は残っていれば、また使うときはコネクトから始めるだけで OK です。ペアリングは毎回必要な操作ではないのです。

ペアリングが必要な時

- ・初めての相手と B+COM 使用したいとき。
- ・リセットしてペアリング情報を消してしまったとき。
- ・色々な機器とペアリングを繰り返すうちに、古いペアリング情報が記憶可能領域から追い出されてしまったとき。
- ・ペアリング済みの機器でも、接続のパターンを変えたいとき。

コネクトが必要な時

- ・ペアリング済みの機器を実際に使用するとき。
- ・エラーなどでコネクトが切れてしまったとき

Bluetooth® B+COM各モデル別 B+COM通話仕様

B+COM 通話を利用するのにあたり、これだけは覚えておきたいことのひとつ、
「その B+COM は何台の B+COM と通話ができるのか。」モデルごとに異なるので確認しましょう。

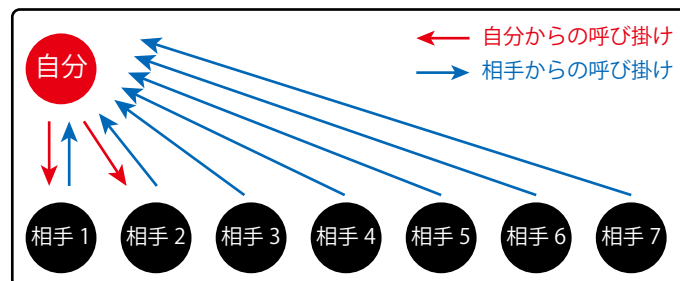
SB213.EVO

マルチプル通話対応

プログラム:t033m



●B+COMとペアリングできる最大数 **7台**



●発信できる相手B+COMの最大数 **2台**

●受信できる相手B+COMの最大数 **7台**

2台のB+COMとそれぞれ相互呼び出しでき、その2台を含む、最大7台までのB+COMから呼び出しを受けることができます。

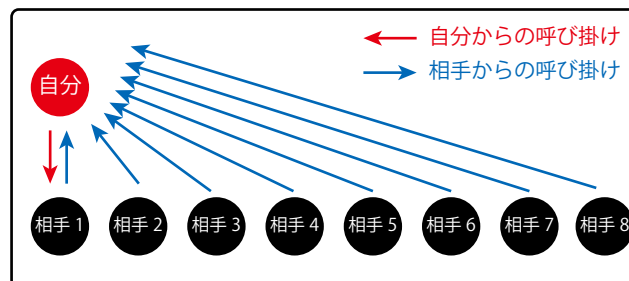
SB213

マルチプル通話対応

プログラム:t021a



●B+COMとペアリングできる最大数 **8台**



●発信できる相手B+COMの最大数 **1台**

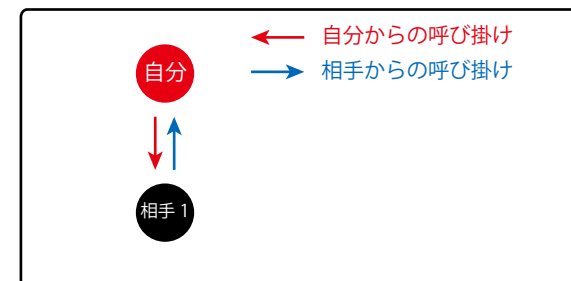
●受信できる相手B+COMの最大数 **8台**

1台のB+COMと相互呼び出しでき、その1台を含む、最大8台までのB+COMから呼び出しを受けることができます。

SB203



●B+COMとペアリングできる最大数 **1台**



●発信できる相手B+COMの最大数 **1台**

●受信できる相手B+COMの最大数 **1台**

1台のB+COMと相互呼び出しができます。マルチプル通話に対応したプログラムへのアップデートには対応していません。

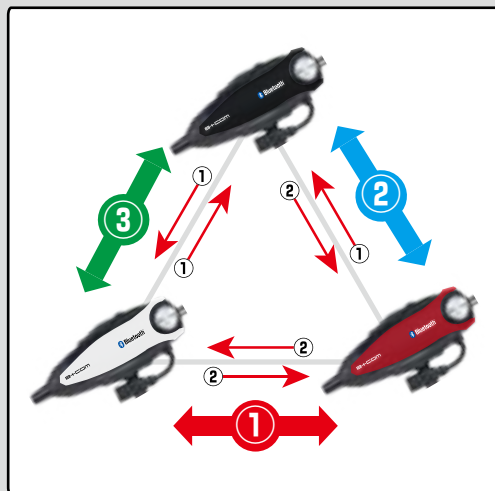
B+COMマルチプル通話の特徴

マルチプル通話は1対1のB+COM通話よりも複雑です。こういった順番でペアリングするとどのようにつながるのか。基本のトライアングル構成を比べて、モデルごとの特性を理解しましょう。

基本情報1：2台のB+COMへ発進する機能のあるSB213.EVOは、呼び出す相手をボタンのクリック数で選択します。

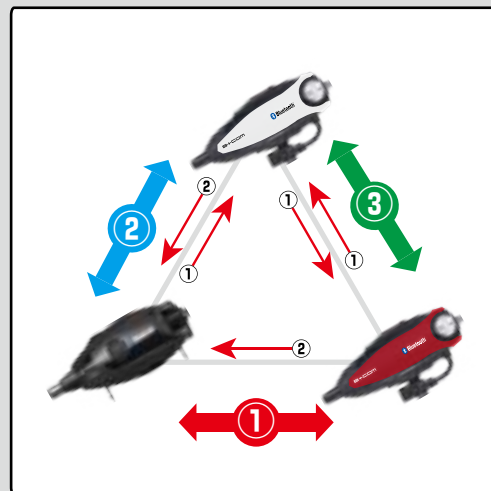
通常通りの1回のクリックで最後にペアリングした相手を、2回クリック（ダブルクリック）でひとつ前にペアリングした相手を呼び出します。

SB213.EVO のみの構成での
基本トライアングル



マルチプル通話における213.EVOの特徴は、2台の相手呼び出すことができることです。これを利用して、理想的な相互呼び出し関係を構成することができます。注意すべき点は、ペアリングした順番による呼び出し時のボタンクリック回数です。上図を参考に、ペアリングとクリック回数の関係を理解しましょう。

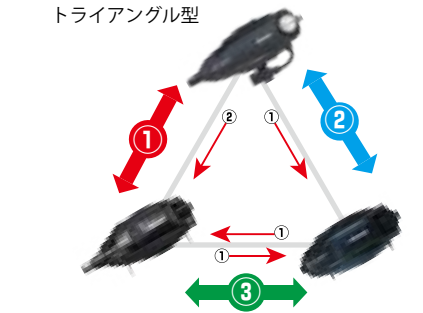
SB213.EVO と SB213 の構成での
基本トライアングル



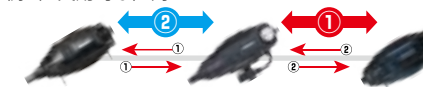
SB213のマルチプル機能の特徴は、呼び出しを受けることができる最大数は8台までですが、自分が呼び出すことのできる相手は1台のまま、ということです。この特性を生かすには、複数の相手B+COMから自分を呼び出してもらえる関係を作ることです。

SB213.EVO と SB213 と SB203
全てのモデルを使用した場合の
基本トライアングル

例1) SB213 と EVO 両方のマルチプル機能を使った
トライアングル型



例2) 実用的な直列型



SB203はマルチプル機能に対応していません。1対1の通話のみというスリムな仕様になっています。したがって、複数のB+COMを使用するツーリングで不便を感じないためには、必ず相手から呼び出してもらえる関係を持つことです。そのためにはSB203以外のB+COMをうまくレイアウトし、リーダー役などを割り振って、複数ツーリングをこなしましょう。無理にトライアングル（3人が繋がった状態）にしないで、EVOが1台あればEVOを中心とした直列構成も実用的です。

図中記号の説明

ペアリング順序



数字の順番通りにペアリング

B+COM 送受信

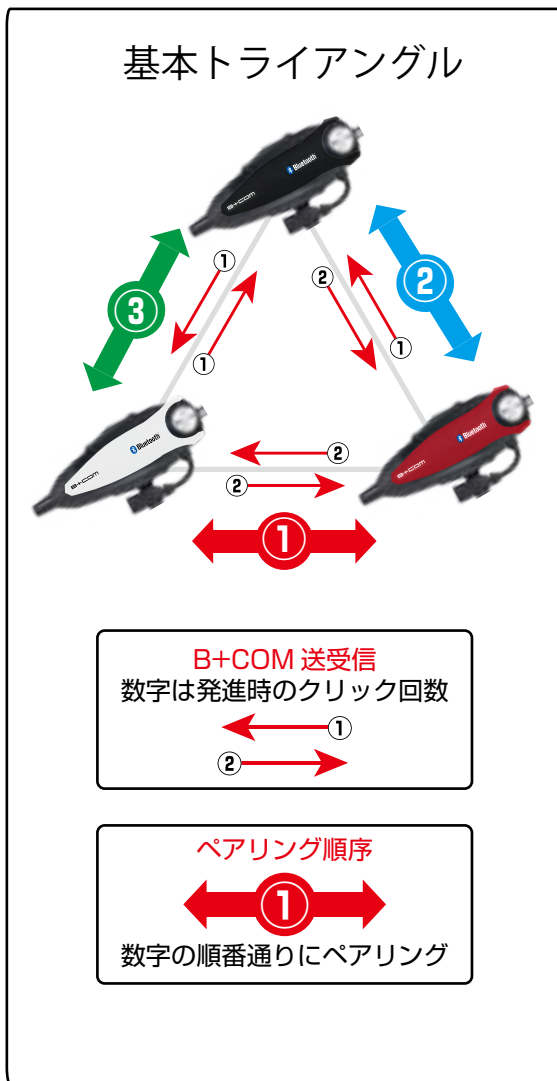
数字は発進時のクリック回数



SB213.EVO のみのトライアングルの場合

マルチプル通話の動きを理解したら、実際のペアリング手順について考えます。

こう動かすために、このようにペアリングします。



- [1] 周囲全ての Bluetooth 機器の電源を OFF にします。

ペアリングの最も基本でありながら、一番見落とされている失敗の原因。Bluetooth 機器のペアリング時は、使用する機器以外の Bluetooth 搭載機器の電源を必ず OFF にしておきます。
- [2] ①でペアリングする2台の EVO の電源を入れる。

メインボタンを5秒間長押しして、ステップアップビープ音が鳴り、ボディ中央のブルートゥースマークのLEDが青点滅状態になるのを確認。
- [3] 2台をペアリング待機状態にする

2台とも、それぞれ B+COM ボタンを5秒間長押しして、LEDが赤色の高速点滅になることを確認します。この状態がペアリング待機状態。
- [4] どちらか一方から「ペアリングどう?」と誘う。

どちらか1台の B+COM の、メインボタンをワンクリックします。「ピポッピポッ」というビープ音が、相手の B+COM を口説き落とすまで鳴り続けます。
- [5] 通話状態になればペアリング成功!

誘われたほうの B+COM から「ピーピー」と音がして、2台とも LED が青点滅になると通話モードになります。動作を確認し、どちらかがメインボタンをワンクリックして通話終了します。
- [6] 次のペアリングのために電源を切ります。

ペアリング中は他の Bluetoothw 機器をオフする必要があります。次のペアリングのために、使用しないほうの B+COM のメインボタンを5秒間長押しして電源を OFF にします。
- [7] ②でペアリングする2台の EVO の電源を入れる。

メインボタンを5秒間長押しして、ステップアップビープ音が鳴り、ボディ中央のブルートゥースマークのLEDが青点滅状態になるのを確認。
- [8] 手順2~5をくりかえします。

ペアリング手順はまったく同じです。どちらから呼び掛けるかなども関係ありません。ペアリング①の手順どおりに同じことをして、次のペアリングに使用しない方の電源を落とします。
- [9] ③でペアリングする2台の EVO の電源を入れる。

最後のペアリング③を開始します。電源を投入し、手順2~5を行います。最後のペアリングに関しては終了時に電源を落とす必要はありません。もうペアリングしないからです。
- [10] マルチプル動作テスト。全ての電源を入れる。

全ての EVO の電源を入れて、動作の確認に入ります。全ての EVO が待機状態になったら、ユニット一つ一つの B+COM ボタンで、「ワンクリック」「ダブルクリック」で相手呼び出してみます。
- [11] クリック回数ごとの呼び出し先を確認。

このページが一番左にある大きな図を参考に、ワンクリックとダブルクリックで、それぞれつながる相手が正しいかどうかを確認してください。
- [12] 全ての電源を落とす。

全て正しく動作することが確認できたら電源を落とします。次回からの使用時はペアリングの必要はありません。電源を入れた時点で項目 11 の状態からスタートします。お疲れ様でした。

SB213.EVO と SB213 のトライアングルの場合

マルチプル通話の動きを理解したら、実際のペアリング手順について考えます。

こう動かすために、このようにペアリングします。



- [1] 周囲全ての Bluetooth 機器の電源を OFF にします。

ペアリングの最も基本でありながら、一番見落とされている失敗の原因。Bluetooth 機器のペアリング時は、使用する機器以外の Bluetooth 搭載機器の電源を必ず OFF にしておきます。
- [2] ①でペアリングする 2 台の B+COM の電源を入れる。

メインボタンを 5 秒間長押しして、ステップアップビープ音が鳴り、ボディ中央のブルートウスマークの LED が青点滅状態になるのを確認。SB213 も EVO も共通です。
- [3] 2 台をペアリング待機状態にする

2 台とも、それぞれ B+COM ボタンを 5 秒間長押しして、LED が赤色の高速点滅 (SB213 は赤青交互の高速点滅) になることを確認します。この状態がペアリング待機状態。
- [4] どちらか一方から「ペアリングどう？」と誘う。

どちらか 1 台の B+COM の、メインボタンをワンクリックします。押した方のユニットは「ピポッピポッ」というビープ音が、相手の B+COM を口説き落とすまで鳴り続けます。
- [5] 通話状態になればペアリング成功！

誘われたほうの B+COM から「ピーピー」と音がして、2 台とも LED が青点滅になると通話モードになります。動作を確認し、どちらかがメインボタンをワンクリックして通話終了します。
- [6] 次のペアリングのために電源を切ります。

ペアリング中は他の Bluetoothw 機器をオフにする必要があります。次のペアリングのために、使用しないほうの B+COM のメインボタンを 5 秒間長押しして電源を OFF にします。
- [7] ②でペアリングする 2 台の B+COM の電源を入れる。

メインボタンを 5 秒間長押しして、ステップアップビープ音が鳴り、ボディ中央のブルートウスマークの LED が青点滅状態になるのを確認。
- [8] 手順 2～5 をくりかえします。

ペアリングが終了したら、次のペアリングに使用しない方の電源を落とします。ペアリング②をすると、①のとき SB213 から呼び出せた機体が呼び出せなくなります。SB213 は最後にペアリングした 1 台しか呼び出せません。
- [9] ③でペアリングする 2 台の EVO の電源を入れる。

最後のペアリング③を開始します。電源を投入し、手順 2～5 を行います。最後のペアリングに関しては終了時に電源を落とす必要はありません。もうペアリングしないからです。
- [10] マルチプル動作テスト。全ての電源を入れる。

全ての EVO の電源を入れて、動作の確認に入ります。全ての EVO が待機状態になったら、ユニット一つ一つの B+COM ボタンで、「ワンクリック」「ダブルクリック」で相手を呼び出してみます。
- [11] クリック回数ごとの呼び出し先を確認。

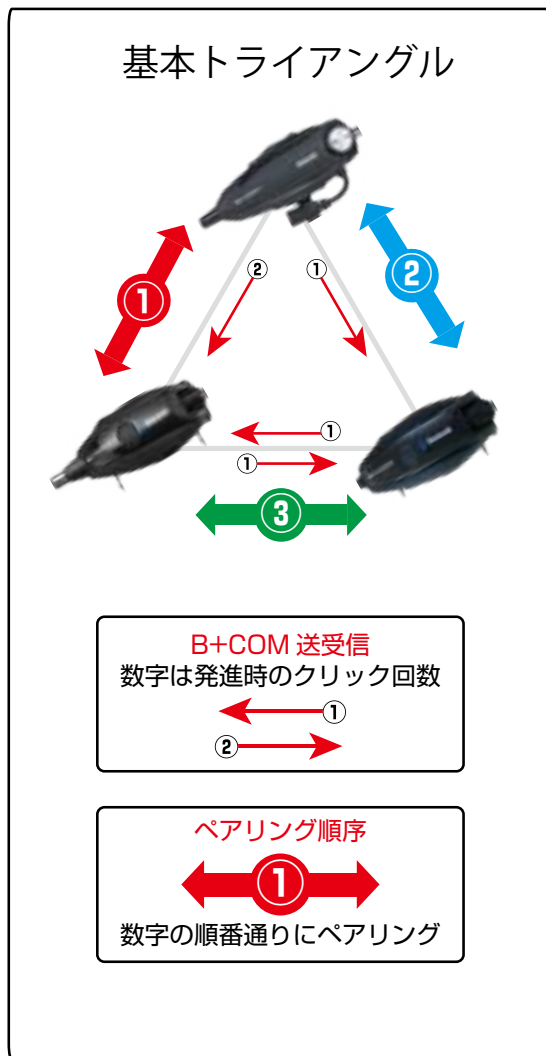
このページの一番左にある大きな図を参考にそれぞれつながる相手か正しいかどうかを確認してください。SB213 がマルチプルで呼び出されると着信音が鳴り、メインボタンを押すことで通話に入ることができます。
- [12] 全ての電源を落とす。

全て正しく動作することが確認できたら電源を落とします。次回からの使用時はペアリングの必要はありません。電源を入れた時点で項目 11 の状態からスタートします。お疲れ様でした。

SB213.EVO と SB213 と SB203 全てのモデルを使用したトライアングルの場合

マルチプル通話の動きを理解したら、実際のペアリング手順について考えます。

こう動かすために、このようにペアリングします。



[1] 周囲全ての Bluetooth 機器の電源を OFF にします。



ペアリングの最も基本でありながら、一番見落とされている失敗の原因。Bluetooth 機器のペアリング時は、使用する機器以外の Bluetooth 搭載機器の電源を必ず OFF にしておきます。

[2] ①でペアリングする2台の B+COM の電源を入れる。



メインボタンを5秒間長押しして、ステップアップビープ音が鳴り、ボディ中央のブルートゥースマークのLEDが青点滅状態になるのを確認。SB213もEVOも共通です。

[3] 2台をペアリング待機状態にする



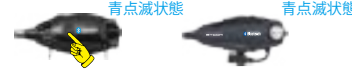
2台とも、それぞれ B+COM ボタンを5秒間長押しして、LEDが赤色の高速点滅 (SB213は赤青交互の高速点滅) になることを確認します。この状態がペアリング待機状態。

[4] どちらか一方から「ペアリングどう?」と誘う。



どちらか1台の B+COM の、メインボタンをワンクリックします。押した方のユニットは「ピポッピポッ」というビープ音が、相手の B+COM を口説き落とすまで鳴り続けます。

[5] 通話状態になればペアリング成功!



誘われたほうの B+COM から「ピーピー」と音がして、2台ともLEDが青点滅になると通話モードになります。動作を確認し、どちらかがメインボタンをワンクリックして通話終了します。

[6] 次のペアリングのために電源を切ります。



ペアリング中は他の Bluetooth 機器をオフする必要があります。次のペアリングのために、使用しないほうの B+COM のメインボタンを5秒間長押しして電源を OFF にします。

[7] ②でペアリングする2台の B+COM の電源を入れる。



メインボタンを5秒間長押しして、ステップアップビープ音が鳴り、ボディ中央のブルートゥースマークのLEDが青点滅状態になるのを確認。

[8] 手順2~5をくりかえします。



ペアリングが終了したら、次のペアリングに使用しない方の電源を落とします。ペアリング②をすると、①のとき SB203から呼び出せた機体が呼び出せなくなります。SB203は最後にペアリングした1台しか呼び出せません。

[9] ③でペアリングする2台の EVO の電源を入れる。



最後のペアリング③を開始します。電源を投入し、手順2~5を行います。最後のペアリングに関しては終了時に電源を落とす必要はありません。もうペアリングしないからです。

[10] マルチプル動作テスト。全ての電源を入れる。



全ての EVO の電源を入れて、動作の確認に入ります。全ての EVO が待機状態になったら、ユニット一つ一つの B+COM ボタンで、「ワンクリック」「ダブルクリック」で相手呼び出してみます。

[11] クリック回数ごとの呼び出し先を確認。



このページの一番左にある大きな図を参考に、ワンクリックとダブルクリックで、それぞれつながる相手が正しいかどうかを確認してください。同時に、SB203, SB213が1台にしか発信できないことも確認してみましょう。

[12] 全ての電源を落とす。



全て正しく動作することが確認できたら電源を落とします。次回からの使用時はペアリングの必要はありません。電源を入れた時点で項目11の状態からスタートします。お疲れ様でした。